

第2回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会 議事録

日時

令和5年2月2日（木） 午後7時から午後9時まで

場所

中野区役所 9階 第11・12会議室（オンライン併用）

出席委員（14名） ※オンライン参加者

徳田良英（会長）※／山崎泰広（副会長）／市原恭代※／伊藤勝昭／大野永美子／
小川将和／倉知和美／白岩裕子※／新家愛／瀬田敏幸／高橋博行※／出竹美奈／
マッケンジー臣恵／矢島和行

事務局

企画部長 石井大輔

企画部ユニバーサルデザイン推進担当課長 堀越恵美子

企画部企画課平和・人権・男女共同参画係員 2名

徳田会長

みなさんこんばんは。定刻になりましたので、第2回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会を開催します。本日も皆様から多くの意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席状況ですけれども、東京商工会議所中野支部の伊東様より欠席の連絡を受けています。15名の委員のうち過半数が出席していますので、中野区ユニバーサルデザイン推進審議会規則第4条第2項の規定に従いまして、有効に成立していますことのご確認をお願いします。

続きまして、配布資料と発言方法の確認を事務局からお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

（配布資料の確認 説明）

なお、参考資料の調査報告書の本編につきましては、電子データで送らせていただいたとおりです。

（発言方法の確認 説明）

徳田会長

それでは、議事1、審議の進め方の確認に入ります。事務局から説明をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

資料1をご覧ください。前回もご覧いただいた審議会の開催スケジュールですが、具体的な日程の追加と審議内容を一部変更していますので、ご確認をお願いします。審議内容の全体像ですが、第2回の本日は、計画改定の中で考慮すべき視点の認識を審議会内で合わせた上で、第2、3回会議でハード、ソフト、ハートの領域ごとに現推進計画の評価・点検意見、提案を頂戴して、それを答申に反映させていただければと考えています。日程につきましては、皆様へ別途お伝えしたとおりです。

徳田会長

計画改定の具体的な内容について、考慮すべき視点を意識しながら現計画の評価を行い、それを答申に反映するということとなります。

次に、議事2、計画改定の中で考慮すべき視点に入ります。今日は主にハードの領域の議論を進めていきたいと思えます。事務局からご説明をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

資料2をご覧ください。こちらは、計画の改定に当たって考慮すべき視点のたたき台です。諮問文の中の諮問理由にも挙げております、現計画策定から現在までの3つの大きな社会変化、中野駅周辺等のまちづくりの進展、デジタル技術の普及等による情報環境の向上、多様性に関する理解促進機会の増加に対応した考慮すべき視点となっています。

また、それぞれの視点の具体例をいくつか例示しています。1の環境整備では、動線の整備や段差解消等と、だれでも使いやすいトイレ、例えば大人の介助用ベッド、ユニバーサルシートなどと呼ばれているものなどもありまして、まちの進展に合わせた整備のあり方をお考えいただく必要があるかと考えています。2のDXですが、令和6年の中野区役所新庁舎への移転を契機に更に進めていく、手続のデジタル化などがあります。最後3では、区では人権及び多様性を尊重するまちづくり条例をこの春に制定したところでもありまして、ハード、ソフト領域の根底の考え方としてのハート、制度等の理解促進等を図っていくことの重要性を例として挙げているところです。この例以外のお考えも、是非本日ご提案いただければと考えています。

徳田会長

計画改定の全体に関する大きな視点を考えて、皆さんで共有していきたいと思えます。

それでは事務局から挙げられた一つの項目につき10分を目安に議論を進めていきます。まず、中野区周辺等のまちづくりの進展を踏まえた環境整備についてご意見を伺いたいと思います。指名させていただきますので、ご発言よろしくお願ひします。

大野委員

大江戸線ができて久しく中野駅を使っていませんが、最近バス停が駅から遠くなったなという実感があります。ふだん乗らないのでたまに乗るときに、北口のバス乗り場はわかりにくいと感じます。

小川委員

大野委員からお話のあったバス停の件では、平成23年頃から整備が始まり、中野区の整備でバス停が移動しています。その間に中野サンプラザの解体等の計画変更もあり、整備が長引く中、バス停が駅からもかなり離れていて、お客様もかなり減っています。その辺は中野区とも継続的に協議しており、今後、新北口の整備で、ユニバーサルデザインに配慮したバスターミナルができると信じています。区役所にも近くなり便利になると思われます。それまで少しご辛抱いただければと思っています。

倉知委員

自転車で駅の周りを行くと、人が多く、避けながら通ることになります。朝早いとお店の前にごみや物が置いてあって、自転車で通るのが大変だと思っています。自転車専用道路と歩道がきれいに整っていたらありがたいと思っています。

矢島委員

南口から始まり現在北口前、それから新西口の整備が進んでいます。JRの話ではありますが、東口の方に小さな改札があると動線が良くなると思います。例えば中野サンプラザがなくなると中野ゼロホールの利用が増えると思いますが、東の方にも改札があったら便利かと個人的には思っていました。

マッケンジー委員

自転車で通りにくいという話がありましたが、ベビーカーで子どもと一緒に中野駅方面へ出かけたときに、狭いのと人混みが多く、難しいなと感じたことがありました。ベビーカーでも通りにくいので、車いすを使われている方はもっと不便を感じる状況なのかと想像しました。

出竹委員

駅周辺をよく自転車で移動します。やむを得ないとは思いますが、一時停止や駐車している車が駅周辺に多くあり、車道を自転車で走っていると怖いと感じています。

瀬田委員

現在の計画にあるユニバーサルデザインの7原則の5番目に「わかりやすさ」があります。外国人の来街者や在住在勤者の視点からは、ピクトグラムやサインなど、必要な情報がすぐに理解できる視認性、言葉や文字以上にマークやデザイン等で、誰が見てもすぐにわかる、トイレのマークやその他必要なサービスを提供できる施設等のマークがあったら、老若男女、国籍を超えて誰にでもわかるようになると思います。オリンピック国際大会でも、様々なものを利用していただきたいと思います。

今後中野は、まちや駅周辺が大きく変貌を遂げますが、誰が来てもわかりやすいまちづくりに良い機会です。加えて、ライトアップやプロジェクションマッピングなどの美観的なことにも良いチャンスなのではないかと感じています。

新家委員

中野駅の高架下を通過して、南口でバスに乗って帰るのですが、区役所側から歩道橋を渡ってしまうと反対側に回りにくいので、動線環境の総合的整備と資料に記載されているので、是非お願いしたいと思っています。

また、高架下は朝晩若干暗く、すれ違いにくかったり、自転車の人とぶつかりそうになったりする問題があります。たばこを吸える場所が少ないので、高架下の近くにある喫煙所には人が集中しています。歩道と喫煙所が近いと、喫煙所から出てきた人にぶつかりそうになったり、たばこのにおいを強く感じたりすると最近感じています。

さらに、高架下に区民の方の作品などが展示されていて、ふと目に入ると気分が和らぐので、あのような場所は残していただきたいと思っています。

伊藤委員

中野駅を降りて区役所へ行くとき、地図はあってもルートが示されていません。案内看板があるとわかりやすいと思います。

また、区役所から中野駅へ行くにも、区役所の前のスロープの傾斜がきつくて車いすの人が自力で通るのは難しいので、ルートの情報もわかるようにした方がいいと思います。

今2箇所くらいにバスの行き先表示がありますが、高齢の方が「どこどこへ行くにはどのバスに乗ったらいいのだ。」と聞きます。外から来た人はわからないようです。バスの案内板に音声案内や代表的な施設へ行くときの経路を載せるなどすれば、運転手が困ることも少なくなるのではと思います。

また、瀬田委員の発言のように、ピクトグラムが少ないと思います。区内の公共施設に施設があっても、ピクトグラムが表示されていないです。世界中の人がすぐにわかるように充実させるべきだと思います。

高橋委員

私は音響式信号機のことでお願ひしたいことがあります。

中野駅ガード下の音響信号機が手動式になってしまっています。半年くらい前に急に変わってしまいました。何が困るかという、手動式だとタッチする場所がわからないということです。タッチする場所から音が出ていると思うのですが、ガード下だと雑音が多くて全く聞き取ることができません。

もう1つが、特に南口ですが、時間帯によって音響式信号機が消されてしまいます。音が鳴る時間は朝7時から夜8時までだと思っています。半年くらい前までは朝8時から夜8時まででした。1時間早くしてほしいと要望したのは私たちのグループですが、なぜかという、そこを7時台に通勤で通る視覚障害者が何人もいるので、音が鳴らないと危険で困るため何度もお願いして1時間だけ前倒ししてもらいました。しかし朝6時台は音が鳴りません。せめて、駅周辺のような比較的住民が少ない場所では手動式ではなく、常に音が鳴る信号を設置していただかないと、私たちのように視覚に障害のある人は戸惑ってしまい、危険が生じることをわかってほしいと思っています。

白岩委員

ガード下で車いすを押すことや、高齢者の方と歩くことがあります。歩道を自転車で走る方もいて、本当に危なくて怖い状況です。車道を自転車で走る方も増えていますが、私も自転車で車道を通るのは怖く、バスにしようかと考えるくらいなので、自転車が通りやすい道路にしてもらえると安心できます。

また、バスをよく利用しますが、バス停を探すのに体力がいる状況でもあるので、バスの案内表示は音声案内を含めて、わかりやすくしていただきたいです。

鷺宮周辺のまちづくりの会議に出ていますが、鷺宮駅南口には階段しかなく、ベビーカーや車いすの方は線路を渡らなければならないなど、他の地域には別の課題もあります。

徳田会長

次に、「DX（デジタルトランスフォーメーション）推進によるサービス向上」に議題を移します。区は、住民サービス機能のデジタル化をし、庁舎に来なくてもサービスを受けられるように整備を推進しようと考えているようです。

市原委員

コンビニのサービスがすごく便利になって、息子に教えてもらっています。チケット発券やステッカー作成、自分のイラストを離れた人に送るなどをしてはいますが、いろいろなサービスが出てきていると感じています。

住民票発行等もできるようですが、手段をどう教えるかも大切です。50歳台でももう

厳しいと感じます。意外と番号やボタンを順番に押す方法が難しく、それをわかりやすくしてほしいと思うのですが、学生でもオンラインでの資料のダウンロード手順を細かく書いてもわからないことがあります、限界があります。

なぜわからないかという、たった1つボタンや手順を見落としていることで、次ができなくなるからです。どこがわからないのかを聞くには技術の知識が必要です。社会全体の課題だと思いますが、いかに簡単に分かりやすくしていくかが大切だと思います。

白岩委員

技術の進歩にうまく対応できない方も多くいます。まだスマートフォンを持っている方が少ない状況ですが、持ち始めた方にはWi-Fiにつなぐところまでお手伝いしている状態です。区役所に行けばいつでもサポート、案内してくれる窓口があると、区役所以外の場所で手続きするときにもスマートになるのかと思いました。

出竹委員

マイナンバーカードも手続きを教えてくれる環境があると導入が進むのではないかと思います。社会福祉協議会で高齢や障害の方から買物の支援依頼で、ネットスーパー等もご案内しますが、やはり一歩が進まない。スマートフォンを持っていても、一緒にやってあげるような環境がないと、結局利用できず、まだまだサポート環境が必要なのだと感じています。

徳田会長

次の「ハートの重要性を広める」についてご意見をいただきたいと思います。

山崎副会長

ハートの必要性についてはいろいろな自治体で言っていますが、手伝ってあげることでだけになってしまっているところもあります。きちんと理解することとの両輪でやっていく必要があると思います。

前回の会議で「ココロのバリアフリー計画」というすごく良い活動のお話をしました。全部のお店をバリアフリーにするのは難しいので、手伝えることも組み合わせながら、シニアや障害者の人たちが使えるお店を増やそうとしています。

これによってお店の方の理解が広まって相互関係もできます。中野にはその応援店がまだ10何軒ぐらいしかなく、これを増やすことが両方の理解にもつながるのではないかと思います。

商店街で一緒にスロープをシェアして活用する等の活動もあります。ハートに関しては、手伝えることと理解することの両輪でやるのが一番大事です。

まちづくりの環境整備ですが、「だれでもトイレ」と書かれているのは、良くないと思いました。私は多機能トイレを増やす活動をずっとやってきて、かなり増えましたが、オストメイトもおむつ替えも着替えも、と、何でも詰め込み過ぎで、本当にそのトイレしか使えない方が使えなくなってしまったのです。ここ2、3年ぐらいで動いてきているのが、多機能トイレの分散化です。

例えばオストメイトの装置は、一般のトイレに移り始めています。着替えと一緒にするとハロウィンなどでは使えなくなるので別のブースにするとか、授乳はどうするとか、では授乳と何の機能を合わせようなど、分散し始めています。ユニバーサルデザインは、全部一つのところでやらせるということだけではなくて、分散するのもいいのです。選択肢があることが重要です。ただ、ケースバイケースでもあり、多機能のトイレがいい場合もあります。

そのため、計画を作っていく中で、変わってきている今後のユニバーサルデザインを検討してほしいです。この間、新庁舎担当の区職員の方たちとお話したときにも、是非新しい庁舎には、今の最新のユニバーサルデザインを取り入れてほしい、と言いました。

それから、高橋委員にもご意見を伺いたいのですが、歩道の端のスロープの最後に2センチ段差があります。その段差があることで、上がれない車いすやつまずく高齢者などがすごく多いです。大宮区や名古屋市などの自治体がスロープの最後をフラットにし始めましたが、そうすると視覚障害者が危ないので、代わりに点字ブロックなどを危なくないように敷いています。中野区も新時代に向かってそういうものを作っていくことも必要だと思います。

DXに関しては、ホームページ等のユニバーサルデザイン化が重要です。高齢者も障害者も、弱視や色弱の方も、誰でも使いやすいようなホームページにしていきたいです。

徳田会長

山崎副会長に全体の統括をしていただきました。最後に何かご意見や言い足りない方がいらっしやいましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

市原委員

トイレは実はほとんどユニバーサルというのがないのです。どういうことかという、勤務先の大学で調べたことがあるのですが、みなさん使うトイレは割と決まっていて、通学路ならここ、授業後ならここ、どこの駅だったらこのトイレを使う、と決まっています。特におむつを替えるお母さんは、かなりはっきり調べて、どこの駅を通過してどこのトイレを使うと決めて出かけています。そのため、みんな用に作るのではなく、目的を持って作った方が有効だと思います。

徳田会長

続きまして、議事の3、現推進計画に対する審議会の評価・点検及び意見、提案に入ります。事務局、説明をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

資料3左側の表では、現推進計画の成果指標の2017年度現状値から2021年度の実績値、2023年度の目標値をそれぞれ記載しています。右側の表では、現推進計画の20、21ページにある施策の方向ごとに、区の自己評価を記載しています。また、資料4は前回お示した現計画の進捗状況に、事務局がピックアップしました項目に変更の視点案を記載しています。これらの資料や前回、先ほどの議論を踏まえまして、皆様の日々のご経験をもとにご意見をいただければと思っています。

徳田会長

先ほど議論した改定の視点を念頭に、現計画の評価を審議会として行い、答申や次の計画につなげるということで進めていきたいと思えます。本日は、資料3のハードまでの議論を目標に4つの施策の方向性について各15分を目安に議論を進めていきます。

資料3、一つ目の施策の方向「利用しやすい安全で快適なみち・公園づくり」の議論に進めていきます。区の自己評価部分について、事務局から説明をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

一つ目の施策の方向は、「利用しやすい安全で快適なみち・公園づくり」です。成果指標などを区が分析をして、今後の進め方等について案を示したものです。内容としては、成果指標であるバリアフリー基本構想で設定した歩道の整備率が目標値まで8割程度の実績値になっていますが、道路の補修工事ですとか、無電柱化という電線などをなくす事業があり、これと併せて調整する必要があるためであり、今後、計画の円滑な進捗のために、更に検討を進めていきたいというところです。

徳田会長

何かお感じになっていることはありますかでしょうか。

小川委員

快適なみちづくりということで、歩道の整備が進んでいると資料に書いてあるのですが、歩道の狭さで様々な問題があると思えます。中野駅周辺ですと人が密集してきて往来も激しく、いくら広く作っても駐輪や路上に物を出すお店もあり、通りにくい現実はあると思えます。

道路の補修工事に合わせた調整と資料にありますが、新しい道路はほとんどないと思

うのですが、これはどの辺を補修して歩道が増えてきたのでしょうか。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

お手元の資料4の上から二つ目の主な取組の実績で、例えば2019年度は新井天神通り、2020年度宝仙寺前通り、2021年度は調整を行っていますが今後も計画は持っています。

山崎副会長

歩道の整備率が何を指しているのか、バリアフリー化が何なのかが分かりません。基本計画を見ると、道路等のバリアフリー化にはいろいろなことが書いてあります。これが全部できると整備されたということなのか、バリアフリー化なのかよく分かりません。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

中野区バリアフリー基本構想というものがあり、そこで一定の方向や方針を持って、重点整備地区や特定事業の計画を立てており、エリアごとに実施予定時期を前期や後期に分けて、目安を示しています。

手すりの設置や勾配の改善などを事業内容として挙げており、この結果はホームページ等にも掲載しています。具体的な事業計画の整備率達成の割合です。

山崎副会長

エリアによって目標や計画が違うということですか。例えばここは歩道が狭いから広くするであったり、ここは勾配が強いから緩くする、であったりということですか。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

例えば東中野・落合地区だと落合駅や住吉公園という具体的な場所を整備する予定を公表しており、順次進める計画をバリアフリー基本構想の中で示しており、その達成状況を数値化したものです。

石井企画部長

少し補足をさせていただきますと、バリアフリー基本構想で設定した歩道の整備率は、そのバリアフリー基本構想で設定している歩道という限定的なものです。資料4に新井天神通りや宝仙寺前通りがありますが、例えば宝仙寺前通りでは、車道と歩道の段差が10センチから15センチくらいあったものをセミフラットの状態に整備しています。多少の高低差はありますが、ほぼフラットな状態で車道と歩道が同じ高さになるものの整備率を示しています。

山崎副会長

セミフラットはなぜ必要なのですか。

石井企画部長

段差があると、車いすやベビーカーの方が通りにくいと思いますので、整備によって通行しやすくなる効果があると考えています。

山崎副会長

大きな商店街など、例えば巣鴨の地蔵通りのように、よく歩行者天国になって、歩道と車道を降りたり乗ったりするところだとそれが必要ですよ。その辺の説明がないと、なぜ歩道と車道の行き来をするのかと思います。

矢島委員

新井天神通りが長い時間をかけてバリアフリー化がされているのを目の当たりにしてきました。なぜここが中野区の中では早い時期にバリアフリー化が進んだのか我々住民に聞かされておらずよくわからなかったもので、区に聞きました。順番的に速くなった理由としては、地下化が進められている沼袋駅から何百メートル、それと2、3年前にできたキリンレモンスポーツセンターだと思いますがその大きな施設から何百メートルの立地などが考慮されたようです。近くに大きなスーパーがあってもそれほど多い往来とは言えず、少し疑問が残ります。確かに段差が少なく、きれいな道路はできました。

倉知委員

中野の北の方から自転車移動なのですが、坂が多いと思います。

公園へも自転車なので駐輪場が大事ですが、駐輪場がなくても駐輪できる場所がわかりやすく表示されるといいなと日頃思っています。セントラルパークではお子様を乗せる電動自転車がたくさん止まっていますが、よく見ると駐輪禁止の表示があるので、どこに駐輪すればいいのか悩みます。

また、新青梅街道は歩道が狭いので車道を走っています。道路の端に自転車専用道路のピクトグラムもありますが、新青梅街道は車が多く、怖いというのが実情です。

マッケンジー委員

ユニバーサルデザインに配慮した公園遊具の更新で新井薬師公園、城山公園がありますが、ユニバーサルデザインに配慮した遊具とはどのようなものかを確認したいです。

公園は子どもたちが遊ぶことがすぐ思い浮かびますが、最近子供たちが自由に遊べる公園がありません。区や都のルールが決まっていますが、ここの公園はみんなで見ると

か、ここは子どもたちが自由に遊んでボールを使ってもいいとか、様々な使い方、遊び方ができる公園を増やしてほしいと思います。ルール看板だけの公園が多く、子どもたちの遊ぶ場所がないのです。公園のベンチで座っているしかない。そうすると子どもたちが外でゲームをするようになりますが、これは大きな問題だと思います。子どもがどんどん少なくなっているのでも考えていただきたいと、子を持つ母として思います。

石井企画部長

ユニバーサルデザインに配慮した遊具は、ブランコですと、ソファやゆりかごのような状態で乗れて、座位の取れない方やどんなお子さんでも乗れるようなものがあります。他にも、車いすに乗ったままでも遊べる砂場などが最近あります。これからそういった遊具を公園のニーズに合わせて整備していきたいという考えを持っています。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

子どもの権利に関する条例をこの春に制定しました。お子さんたちからも意見を聞いて、公園の整備計画を作っています。重ねて所管の方にも伝えつつ、ユニバーサルデザイン推進計画にも反映していくことも必要な視点だと考えています。

新家委員

新井天神通りの話がありましたが、この場所がなぜ選ばれたのか、この場所に本当に必要な工事なのかを確認しながら進めていくことが大切だと思いました。きれいで使いやすいものができるのはいいことですが、工事の期間に人が通りにくかったり、車道に出なければいけなくて危なかったりするの、工事の期間が長くなるほどあると思います。その場所に必要なものを必要なときに短期間で工事をして、次の本当に必要なところに進めていけるといいと思いました。

自転車利用ルールの周知やマナー向上の話もありましたが、最近だと「歩きスマホ」が危ないと思っています。道路の整備も必要ですが、使う人のマナーも考えていけるといいと感じました。

徳田会長

次の議論に移ります。「円滑に移動できる交通環境づくり」について事務局から説明をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

二つ目の円滑に移動できる交通環境づくりは、指標では特定事業の整備率としています。こちらは概ね計画通りに進んでいるところです。今後も継続して、円滑に移動できる交通環境づくりを進めていきます。資料4では、案内表示の充実、円滑に移動できる交通サービスの検討、交通事業者と連携したまちづくり、利用しやすい駐車場、自転車駐車場

の整備となっています。

白岩委員

鷺宮駅近くからは、2回乗り継ぎが必要なこともあり不便を感じています。先日区長の視察がある集まりで、たくさんの高齢者の方が同じことを言っていました。高齢者の方がますます増える中で、交通の便はすごく大事なことだと常を感じています。

また、先ほどお話があったように実感がわきにくいです。達成目標は、計画を立てた数が基礎だと思いますが、実際の満足度、達成感というのは、鷺宮では歩道の狭さなど地域ごとの差があって、課題がたくさんあると思います。

徳田会長

中野区の評価だと計画通りうまくいっているようですが、住民の方の気持ちと違うところもあるのかもしれないね。

大野委員

大江戸線に長いエスカレーターがあります。ハードに関する意見ではないのですが、傘の持ち方が悪かったり、間違っただ傘を落としてしまったりすると危ないと感じています。傘を安全に持つという啓発があったらいいと、身近な危険を感じるという意味では思っています。

高橋委員

JR中野駅の改装ではホームドアが設置されると聞いたと思っており、期待をしています。

バスやタクシーを乗ろうとしたときに、中野駅南口は点字ブロックが圧倒的に少ないです。こんなに少ない駅は都内でほとんどないと思うくらい、区民として恥ずかしいくらいです。バス乗り場にも、タクシー乗り場にも点字ブロックがありません。これを放置してしまっている状況が私には分かりません。私たちの団体が要望していますが、なかなか実現していません。

伊藤委員

江古田の森公園で2年間補修されていないベビーチェアがあります。新井南公園もおむつ替えベッドが整備されておらず、これも2年間そのままです。公園づくりで良いことをやっても、手が行き届いていません。公的な案内にはあるので、行ったときにないと困る方もいるかと思います。補修はきちんとやってほしいと思います。

新井天神通りは、昔は自動車会社がスピードを出して実験するような通りでした。信号がなく、大きなスーパーマーケットがあって、高齢者がたくさん渡って危なかったのです。

歩道が整備されてガードレールのないところしか渡れなくなった点はすごくよかったし、浸透性の歩道になって、すごく歩きやすくなりました。ボランティアも花を植えるようになりました。道路との段差は全部なくなり、自転車や車いす、ベビーカー、歩きでも、なかなかつまづかない良い歩道になったと思います。他の歩道もあのようにしてもらいたいと思っています。

公園も是非整備していただきたい。そのことだけでもこのバリアフリーの成果につながると思います。使い勝手を良くしていただきたいと思います。

出竹委員

自転車指定場所を通ろうと思っても溝があるために少し車道に寄って走ってしまい、とても怖いと思うこともあります。

中野駅北口を通勤で使っていますが、朝などは様々な方面から駅に向かって歩いてくる人が往来していて、ぶつかる人もいて、限られたスペースで難しいだろうと思うところはありますが、もっと使いやすく、わかりやすくなるといいと思っています。

徳田会長

ありがとうございます。続いて、「利用しやすく配慮された区有施設づくり」について、事務局から自己評価の説明をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

成果指標では合同点検を行っており、この累計が目標値に達している状況です。利用しやすく配慮された区有施設のための整備や改修を進め、現在も定期的な訪問での事後検証を行っており、今後の施設の整備時には、ユニバーサルデザインの視点に配慮して設計等に反映をしていきたいというところです。資料4ですと、一つ目に区有施設の整備・改修の基本的な考え方の策定ということで、東京都のガイドラインにも従いながら改修を進めることや事後検証を行うことを書いています。二つ目が利用しやすい施設の整備で、こちらも東京都のガイドラインに沿って行うことや、備品や商品活用も進めていきたい、ということです。

徳田会長

合同点検の件数は結果は関係なく、調査件数ということでよろしいですね。具体的な点検の施設などについてお示しいただけますか。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

調査の件数です。平成30年度には、新中野地区と新井薬師前の地区で、20名以上の参加者でそれぞれ行っています。新中野地区は、杉山公園から追分通り、青梅街道等5つの施設を点検しています。新井薬師前地区では、新井薬師公園や公園の道路から商店街通

りを結ぶ道路、商店街、上高田本通り、区施設の上高田センター等8箇所を行っています。令和2年度には江原公園と桜山公園の2施設を点検しています。

徳田会長

ありがとうございます。区の施設づくりに関して、ご意見いただければと思います。

瀬田委員

利用しやすく配慮された区有施設では、在住・在勤・在学の外国人のお子さんや大人の方も含めた中での配慮が必要と思いますので、ハード面に加えてサインやピクトグラム等誰もが視認性としてわかりやすく理解できることが更に求められる時代だと思っています。

現計画の28ページに「都立建築物のユニバーサルデザイン導入ガイドラインに基づき…」と書いてあるのですが、「区としての基本的な考え方を等を別途定め、整備改修を進めます」ということで、中野区として都の考え方に加えて特に力を入れている等、事務局で補足して教えていただければ幸いです。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

東京都のガイドラインは随時更新されており、ユニバーサルデザインの具体的な内容を示すガイドラインになっているので、そちらに準拠しています。二つ目に区有施設の整備計画を令和3年度に策定しており、施設整備の際にはユニバーサルデザインを考慮することを記載しています。この2つで現在整備を進めているというところです。

矢島委員

2点あります。1つは良い方です。キリンレモンスポーツセンターに近い平和公園通りにきれいな歩道が設置され、車が危ないのでガードレールがつけられました。ところが、ガードレールが切れていなかったもので、間違っって歩道に入ってしまった自転車が出られなくなってしまい、そのまま歩道を自転車が走らなければならず、自転車も歩道を歩く方も困ってしまう、と、区に申入れをしてガードレールを切ってもらいました。間違っって入った人もそこから出られるようになり、すぐに実行していただけてよかったです。

それから、悪い方で1点。キリンレモンスポーツセンターはユニバーサルデザイン、バリアフリー化されたすばらしい建物だと思います。ただ、入り口にスロープがあるのですが、健常者にとっては相当遠回りになってしまうということで考えられたと思うのですが、横から昇り降りできる階段があります。健常者の方はそこを使う頻度が高いです。その階段から、先日、町内の高齢者の方が落ちました。防犯パトロールをしていただいている帰り道だったのですが、13段ほどの階段から落ちて、31針縫う大けがをしまいました。

後からみんなで検証したところ、両端の手すりは、コンクリート打ちっ放しの壁にデザインを合わせるため手すりがいぶし銀のような色で、手すりが分かりにくい状態で、ほとんどの方は手すりを使っていませんでした。そこで、階段の真ん中に手すりをつけるか、今ある手すりをはっきりと目立つ色に塗ってもらいたいということを申入れをしました。

また、階段を下りるところの点字ブロックも地面と同じ色で、そこにつまずいて落ちそうになった方が何人もいました。一般的な黄色の点字ブロックにしてもらいたいということも申入れしました。

徳田会長

区の施設を定期的に点検して、良くない点を共有していくことが大切です。成果指標で目標値となっていますが、ますます点検をしてみなさんで危ないところを共有していくことが重要だと思います。

マッケンジー委員

公共の施設でも、鷺宮方面の施設は使いにくそうなところがたくさんあります。達成率は分かるのですが、他の委員の意見のように住んでいる場所によって実感がわからないことがあります。中野の駅の周りや大きな施設からだとは思いますが、早く全体的に行き渡るようになってほしいと思っています。

徳田会長

私は千葉県松戸市で暮らしていますが、地域の方の活動が盛んで、まち探検をして、バリアがあることや使いにくいことを共有する活動をしています。成果指標は、中野区では区が設定してやっているものですか。それとも区民団体がやるものですか。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

区が場所を設定し、区民の方を含めたまち歩きなどで点検しています。

徳田会長

わかりました。区だけではなく、住民の方も一緒に巻き込んで、一般の方に関心をもっただけるといいのではと思います。

市原委員

意見の取り入れも大切ですが、アフターケアを見逃しがちで、予算等も組まれないです。実際につくってみたら実は問題ということが必ず起こるのですが、意外と顧みることがないです。最後の予算を残してアフターケアをして、良かったかどうかをチェックしていただけると良いのではないかと思います。

徳田会長

再評価してスパイラルアップしていくようなイメージですね。とても大切だと思います。

それでは、最後に「利用しやすく配慮された民間施設・住宅づくり」について話を移していきたいと思います。

伊藤委員

中野区には道路と公園に関して「なかのEYE」というアプリがあります。非常に便利で、即対応してくれるアプリです。こういうものを使って、区民の意見を吸い上げてもらうため、是非みなさんに周知してもらいたいと思います。

また、中野の防災メールLINEがあって、瞬時に防災情報が入ってきます。地震、大雨情報、妙正寺川や神田川の河川情報も届きます。こういうものを広め、利用することで、ユニバーサルデザインを実現化していく大きな力になるのではと思います。この2つを利用してもらえるような案内をするといいと思います。

高橋委員

私たちが商店街、デパート、飲食店、郵便局や銀行に行ったときに、昨今人員を削減しているためか、人がなかなかつかまらないというストレスがあります。一人で席に着く、食券を買う、どういうメニューがあるかなどは、情報が目から入らないので店員さんに頼らなければいけない状況にあります。

しかし、「すみません」と声をかけても出てきてくれない、もしくは非常に忙しそうなので気をつけて退散するような状況です。先ほどの議論のハートではないですけど、周囲の人たちとうまくコミュニケーションをとって、一般の方々が気軽に私たちに肩を貸してくれるようになったらとてもありがたく、住みやすいまちになると常々思っています。

白岩委員

大和町の方には、建物以前に暗くて夜怖い場所がまだまだあります。元々の歩道が狭くて車いすやベビーカーが通るのは難しいです。お店の前に駐輪場所がなく、歩道にはみ出して自転車を置くと足や目が不自由な方が通りにくいなど、細かいところでは鷺宮周辺には課題が多くあります。

また、バスを使う高齢者がとても多く、降りるときに衝撃が強くて転んでしまうことがあります。低床のバスもあるのですが、そうではないバスもまだ多いです。歩道の近くにバスが止まったときに、歩道の手前の道路に直接降りるか、元気な人は歩道まで足を延ばすのですが、高齢者には厳しい場面があります。バス停周辺の道路環境が良くなってほし

いと思います。

徳田会長

中野駅を降りるとブロードウェイや商店街がありますが、まだまだユニバーサルデザインの考えが入っていないところが多いのではと思います。スーパーや商店街、その他民間施設を使うことが多いかと思いますが、実際暮らしてみているかがですか。

倉知委員

商店街やスーパーは、昔からのものも新しいものもあります。スーパーや小さな商店街は、ユニバーサルデザインまではなかなかできていないと思っています。私も前だけ見ていて、段差や入り口に足をひっかけたこともあるので、バリアフリーを考えると、そういったところは大事だと思っています。

徳田会長

民間でもユニバーサルデザインを進めるため、教育等、みなさんの意識が高まっていかないと難しいと思います。学校の様子をみて、教育等は何か感じられることはありますか。

マッケンジー委員

学校のバリアフリー等の教育ではオリンピックの関係で、ピクトグラム等、相当いろいろな勉強をしていました。ただ、授業では習うのですが、子どもたちからすると少し遠い感じがするかもしれません。

自分たちが実際に生活している学校の建物の中がどうなっているかという、車いすの子は先生がおんぶして運びます。なるべく1階、1階が無理だったら2階の教室で、その学年は移動しないで教室を配置されています。しかしエレベーターがない学校の方が多いので、先生がおんぶやだっこで運んでいます。そういうことを見ているので、なかなか学校では進んでいないと思います。

トイレも非常に狭く、車いすが入れるトイレがない学校もあります。私がPTA会長の学校は築60年を過ぎていて、そういうことが身の回りの生活であるので、「オリンピックでこうなったよ、中野区の中央の方はね」と言われても、遠い感じがするというのが、子どもと実際に話していて感じることです。

徳田会長

ハート、心の部分でみなさんがそういう気持ちになるまで醸成されていなくて、民間施設まで話が進んでいないのかなと思います。山崎副会長いかがでしょうか。

山崎副会長

私もオリパラに関わっていました。学校でも企業でも心のバリアフリーの教育が進みましたが、本当に差があります。学校や企業ですごくやっているところと全然やっていないところ、期間が終わったらパタッとやめてしまったところもあります。そこで差がついてしまいましたが、障害者差別解消法等が強くなっていくので、これからもっと心のバリアフリーを知る必要があります。障害者を知ることで、高齢者のことが分かっていくので、是非やっていくべきです。

車いすバスケットや車いすラグビーなどパラスポーツの人たちが借りる体育館を探していても、バリアフリーではなく使えないこともあります。そういうことも含めて、これから学校はバリアフリー化していかなければいけません。

また、先生方も高齢化していくので、全て含めて考えていくべきだと思います。本当は区が旗を振ってほしいです。すごくやっているところは区長さんや教育長さんが旗を振っていますので、そこは是非お願いします。

市原委員

私の大学にもユニバーサルデザインを必要とする乙武さんと同じ障害の学生がいて、駅からぬれずに車いすで通える大学を選んで、電動車いすで通ってくれました。走れるだけでは駄目で、雨が降ったときにぬれないで通えることが大事です。その学生と大学と一緒に確認したところ、使えるトイレが1階にしかなく、ゼミの教室が8階のため間に合わなかった場合、地震の場合について話し合い、小柄な学生だったので、地震のときには先生が運ぶということになりました。突発的なところは仕方ないのですが、先生に負担がかかりすぎないように、いろいろな方面からユニバーサルデザインを考えなければならないことが分かります。

電動車いすで毎日通ってくる元気な男子学生だったのですが、あるとき大学の前の横断歩道の真ん中で止まってしまいました。それを見て、みんなで何とか運びました。止まってしまうこともあり得るということで、大変だと勉強になりました。

知らない人に車いすを押されることが非常に怖く、一人で通えなかった事例もありました。

実際に通ってみて初めて分かる問題がたくさんあると思うので、一人でも多くのいろいろな方、いろいろな障害のある方等に出てきてもらって、言ってもらえることが大事だと思います。工夫して更によくしていければと思います。

ただ、合宿は駄目でした。合宿して発表するという行事では、車いすで行ける合宿所が見つからず仕方なく学校で行ったのですが、つまらないとブーイングを受けました。

徳田会長

バリアフリーやユニバーサルデザインの考え方は、お金をたくさんかけるのではなく、みんなで知恵を出し合ってやれることをやっていきたいと思います。民間施設の方も一緒に参加して理解してもらえと思うのですが、どうしても改修にお金がかかると入り口のハードルが高くなるかもしれません。情報をきちんと共有して、メリットがたくさんあることをお伝えして、一緒に考えながら、できるだけユニバーサルデザインに近づくように努力をしていきたいと思います。

本日はたくさんのご意見をありがとうございます。いただいたご意見は最大限尊重し、内容を整理させていただきます。

本日の議論は終わりということで、最後に事務局から事務連絡をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

次回の第3回審議会は、3月16日木曜日の夜を予定しています。

議事録は、事務局から案をお送りして、確認をいただきながら作成しますので、ご協力をお願いします。

徳田会長

本日はハードを中心とした議論でしたが、次回はソフト、ハートを議論していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

次回は同じ資料を使うこととなりますので、読み込みを進めておいていただければと思います。本日は長時間お疲れ様でした。本日の審議会は閉会します。

(午後9時閉会)

第3回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会 議事録

日時

令和5年3月16日（木） 午後7時から午後9時まで

場所

中野区役所 7階 第9・10会議室（オンライン併用）

出席委員（14名） ※オンライン参加者

徳田良英（会長）／山崎泰広（副会長）／市原恭代※／伊東海※／伊藤勝昭／
大野永美子／倉知和美／白岩裕子／新家愛／瀬田敏幸／高橋博行※／出竹美奈／
マッケンジー臣恵／矢島和行

事務局

企画部長 石井大輔
企画部ユニバーサルデザイン推進担当課長 堀越恵美子
企画部企画課平和・人権・男女共同参画係員 2名

徳田会長

みなさんこんばんは。定刻になりましたので、第3回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会を開催します。本日も皆様から多くの意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席状況ですけれども、関東バス株式会社の小川様より欠席の連絡を受けています。15名の委員のうち過半数が出席していますので、中野区ユニバーサルデザイン推進審議会規則第4条第2項の規定に従いまして、有効に成立していることを確認しました。

続きまして、配布資料と発言方法の確認を事務局からお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

（配布資料及び発言方法の説明）

徳田会長

本日の議事に入る前に、前回審議会の概要及びユニバーサルデザインの考え方について、全員で認識を確認するため事務局から説明をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

では最初に、前回審議会の概要についてご説明いたします。まず、計画改定の中で、考慮すべき視点を議論していただきました。中野駅周辺等のまちづくりの進展を踏まえた環境整備では、歩道や自転車専用道路の整備において動線上の障害の解消について、次にDX推進によるサービス向上では、デジタルの手段が苦手な人、対応できない人への対応方法について、次にハートの重要性を広めるところでは、手伝うことだけでなく、理解することなどの意見をいただきました。その後、現推進計画のハードの施策の方向に対する審議会の評価や意見について議論をしていただきました。今回は続きのソフト、ハートに進む予定です。

次に、ユニバーサルデザインの考え方についてです。中野区ユニバーサルデザイン推進計画冊子7ページ、もしくはスクリーンをご覧ください。まずユニバーサルデザインの考え方ですが、区ではユニバーサルデザインを「年齢、性別、個人の属性や考え方、行動の特性等にかかわらず、全ての人々が利用しやすいようあらかじめ考慮して都市及び生活環境を設計すること」と定義しています。建物だけでなく、教育、情報、サービスなど、あらゆる分野に取り入れることができると考えています。次に計画書10ページではユニバーサルデザインの7原則を紹介しています。誰でも公平に使える「公平性」、利用者に応じた使い方ができる「柔軟性」、使い方が簡単ですぐに理解できる「単純性」、使い方を間違えても重大な結果につながらない「安全性」、必要な情報がすぐに理解できる「わかりやすさ」、無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使える「省体力」、利用者に応じたアクセスのしやすさと十分な空間が確保されている「空間性」です。

徳田会長

本日はこの話を踏まえて、ご意見をお願いします。ユニバーサルデザインの考え方について、簡単に私からも説明させていただきます。

ユニバーサルデザインは、「これがユニバーサルデザインである」とは言いにくく、コンセプトです。よく説明で使われるのが、シャンプーの側面にごつごつと突起がついているなどです。それらは目の不自由な人だけではなく、多くの人にとってわかりやすくしたものです。このようなものは、各会社それぞれで作っても意味をなさず、多くのシャンプー会社が同じように作っているから、突起がある方がシャンプーだと分かります。さらに、突起をつけて価格が大幅に上がってしまうと、製品に導入しにくくなってしまいます。お金をかけすぎないように知恵を出し合うことがポイントです。

それでは、議事、現推進計画に対する審議会の評価・点検及び意見、提案に入ります。本日はソフト、ハートの計八つの施策の方向について、各10分程度を目安に議論を進め、最後に意見をまとめようと考えています。

本日審議するソフトやハートの領域は、目に見えにくいこともあります。審議を活発にすることと、審議会の意見をまとめていくことに当たりまして、検討の視点例を事務局に

提示してもらいました。本審議会は計画を策定する際の考え方を答申することが役目ですので、日常生活で感じている不便さをどのような考え方で解消していくかのヒントや方向性をまとめた言葉にしていく必要があると考えています。日常に見える課題から、解決のための答申の考え方を意識してご発言いただくようお願いします。

それでは、「利用しやすくわかりやすい区のサービスづくり」から始めます。視点例として、わかりやすい手続や区民が便利だと感じる行政サービスが示されています。資料2では、3ページが関連部分です。では、議論を始める前に事務局から補足ありますでしょうか。

堀越ユニバーサルデザイン推進担当課長

資料2の3ページの「利用しやすくわかりやすい区のサービスづくり」で、右側に変更の視点を示しています。「全ての人々が円滑に利用できるサービス・事業の充実」として、区役所窓口の環境の点検・見直しを行っています。いつでも、どこにいてもオンラインで必要な手続ができるようスマートフォンを利用した個人認証や決済の導入を見据えた電子申請サービスの検討が変更の視点です。「災害時の迅速な情報提供と要支援者への配慮」で、災害情報の発信や必要な支援の対応を進めるとしています。その下に計画の策定に関して、概要版の作成や音声コードの導入を進めるとして現計画を進めています。

石井企画部長

区役所が新しくなります。現在、区立体育館の跡地で建て替えをしていて、来年の5月には引っ越しをします。新しい区役所では、できるだけ電子化を進めよう、あるいは区役所に来なくてもいろいろな書類がとれるようにしようと進めています。この取組みで便利になる部分もあるけれども、一方でデジタルに対応できない方への懸念もあります。これからの区の電子化でどういったことに配慮すればいいか、ユニバーサルデザインとしてどのような配慮が必要か、それぞれ感じていることを話していただけるとうれしいです。

徳田会長

議論をしやすいように範囲を狭めて、資料2の5の1「全ての人々が円滑に利用できるサービス・事業の充実」に関して、議論を進めましょう。今の説明も踏まえて、日頃感じている電子化でわかりやすい・わかりにくい、使いやすい・使いにくいなどありましたらお願いします。

新谷委員

以前転勤が多かったのですが、自治体によって電子申請のやり方やスマートフォンとパソコンのホームページの位置や使っている言葉が違うことで、戸惑いを感じたことがあります。引っ越しで中野区に来る方などが、他自治体での手続と同じように直感的に操作できるようになると良いと思います。

また、通いの場も他の自治体から引き続き活動ができたら良いと思います。デジタル技術、Z o o mなどを使って継続的に活動ができたり、他の自治体との連携という要素があったりすると良いと思いました。

矢島委員

町会活動の関係で区の助成申請手続きが多いのですが、4、5年前までは手書きで判子を押していましたが、最近多くがデジタルで申請できるので助かっています。ただ、申請書の一部はホームページからダウンロードできず、申請書を送ってもらうこともあり、全てホームページから入手できると便利だと思います。

また、円滑なサービス利用には、デジタル化に対応する職員も、今まで通り手書きに対応する職員も必要になり、過渡期なので、区の職員の対応は大変だろうと想像しています。

マッケンジー委員

仕事でいろいろな申請に関わっていたのですが、その申請が電子以外の申込みを基本的に受け付けないものでした。高齢の方や電子で申請できる環境にない方のために地域事務所のパソコンを予約して借りることはできても、大変で申請を諦めてしまう高齢の方が多くいたことが記憶にあります。電子化の波に乗れない方が困らないように、1人も取り残さないように手厚く行っていただきたいです。

徳田会長

今20代で若い方が高齢になる時には、機械に慣れている方が多くなると想像しますが、過渡期には使い慣れていない方も多くいるので、両方のサポートがあった方がいいと感じます。

山崎副会長

大学の時にコンピューター科学を専攻しており、多くのプログラムを作っていた時に、「フルプルーフ」という言葉がありました。日本語に直訳するとあまりよい言葉ではありませんが、「馬鹿でもできる」というような意味です。

どのような人が操作しても間違えないようにプログラムを作ることを指導されました。今でもこの教えを考えて行動しています。行政のホームページを見ていると、抜けているところがあって、専門家の目で作ると、専門家ではない一般の方のやることってわからないのです。ホームページに限らず、一般の方の目を入れて、政策を立案することが必要です。誰でもわかることが大切です。

最近、ホームページでチャットなど、いろいろなヘルプがありますが、ヘルプが少ないページもあります。いろいろなヘルプを用意しながら、高齢の方も操作できるようにしてほしいです。

また、ユニバーサルデザインで誰も取り残さないことが大事なので、できる限り、その他の方法でもできるようにすることが重要です。「全ての人」の中の知的障害の方等はどうかという課題もあります。保護者や支援者が代理で行うのかなど、必ず他の方法を考えた上でデジタル化を進めてほしいと思います。

また、前回の審議会でも話しましたが、高齢者のパソコンやスマートフォンの教室も多くあります。そこからすばらしい専門家になった高齢者もいるので、やってみないとわからないです。そういった教室も区が提供してデジタル化に向けて、高齢者やデジタルが苦手な方の支援を是非してほしいです。

白岩委員

日頃、高齢者を担当していることからの、分かりにくさをお伝えしたいと思います。

私ども介護サービス事業所連絡会が接する高齢者は、デジタルが苦手な方が多いので、関係者が見てわかるサポートのしやすさを考えてほしいです。ホームページのどこを見れば良いのか、スマートフォンを買ってもデータ通信契約が少なく、ホームページを見るなど、デジタルでの手続きには使えない状況なので、高齢者会館や区民活動センターなどでWi-Fiが使えるなどの支援が高齢者のデジタル手続きには必要です。できればそこで、資料2の5の1にもある、予約制のマンツーマンでの相談を受けられる体制があると進めやすいと思います。

これから一人暮らしで認知症の方も増えてくると、手続の案内さえ分からないことがあるので、関係者も案内を確認できたり、案内が高齢者に届いていることが分かったりすれば、周りのサポートもしやすくなると思います。

徳田会長

次に資料2、5の2の災害時の情報提供に関して議論を進めます。先日トルコの方で大きな地震がありました。東京にも、いつ大きな地震、あるいは災害があるか分かりません。ご意見がある方、お願いします。

マッケンジー委員

学校が災害時の避難所になるので、区の会議などに何度か参加しています。避難所になる学校の校長先生ともやりとりが密にあります。

その時に校長先生が憂慮していたのは、地域に要介護の方や1人では逃げられない方が多くいますが、どこに助けが必要な人がいるのか、情報が共有されないので、助けられないということでした。区に聞きましたが、個人情報をごくまで共有するべきかは大きな壁があって難しいとのことでした。

町会などまでは情報があるのかもしれませんが、町会役員でも高齢化が進んでいて、情報を持っている方たちを助ける必要も出てきます。災害時に動ける人が助けに行けるような情報の共有とユニバーサルデザインとして狭い道路などの見直しを進めていく必要があると思います。

矢島委員

町会に区から渡された要支援者の名簿は、町会役員のごく一部しか知らず、区施設の金庫に保管されているくらい重要なデータとして扱っています。個人情報保護審議会にも所属していて、今のお話と逆の流れになっています。

個人情報は守らなければなりません、名簿に名前を載せることすら嫌だという方もかなりたくさんいます。

そこが痛しかゆしで、有事の際にお手伝いをしたいので情報を共有してほしいという人もいてくれますが、個人の情報はできれば教えたくないという難しい状況があります。

大野委員

災害時の情報提供ですが、防災無線や非常放送が恐らく日本語だけです。多言語として、もう1、2か国語あってもいいのではないかと感じています。

瀬田委員

昨年区が行った総合防災訓練に国際交流協会が参加して、外国の方を含めた防災のシミュレーションを行いました。そこでも、やさしい日本語が注目されています。

やさしい日本語が知られるようになったきっかけは、阪神淡路大震災や東日本大震災の時に、避難所で言葉が通じず、情報が滞って亡くなられた外国籍の方などがおり、情報の壁が非常に大きかったという反省からです。避難時や避難所で外国の方にも同じように情報が伝わるように、防災を最優先にやさしい日本語やピクトグラム、サインを積極的に活用しながら考えています。

中野区も熱心に取り組んでおり、防災のハンドブックを多言語で用意しています。通常多言語というと、日本語、英語、中国語、ハンゲル語ですが、それにやさしい日本語を加えています。当協会のホームページもやさしい日本語や理解しやすい言語に変換しています。

以前ご紹介した多言語アプリには約32言語が入っていますが、中野区内にはそれを越える外国の方がいて、これを追求すると、120言語以上を用意することになります。AIを活用して、一人一人のニーズに合わせて情報をカスタマイズして届けるのが理想だと思います。これは外国の方に限らず、同じように情報のバリアがある障害がある方にも言えます。

伊東委員

I T化がどんどん進んでいくのは間違いないと思います。企業は厳しいので、生産性向上のためにI Tを活用していかなければいけないと思います。そうでないとグローバルに太刀打ちできないというレベルまで来てしまっています。

一方で、デジタルを使える人と使えない人がいます。使える人が増えるまでの期間をどうするかは重要な問題です。使える人が支援する、また、その周知をしていくことが大事だと感じていました。

高橋委員

福祉団体連合会で2週間前に防災講座を開催しました。今まで自助・公助・共助の3つが取り上げられていましたが、最近は「近所」が加わることもあるようです。特に障害がある当事者として、ふだんからお隣さんなど近所の方と親密でなくても、挨拶程度のつながりを持つことが大事だと話し合われました。また、何かあったときにつなぎ合えるような、ふだん使用するアプリで防災時に役立つようなI T上でのつながりを模索していくと良いのではないかと考えています。

昨今、個人情報保護の声が大きく、必要なときに必要な情報を出せないことがあるかもしれませんが、災害に関しては柔軟に考えるべきではないかと考えております。

山崎副会長

バリアフルな環境で人を助けるのは大変なので、元からバリアフリーな状態にすることが大事です。例えば、災害時に車いすの人が2階以上から脱出する装置が数多くあります。また、階段から下ろすことのできる車いすもあります。中野区の新庁舎ではそういうものの整備が必要です。また、そういうものを整備する助成金を設計してほしいです。

「逃げバリ」という災害時のバリアフリーが数年前から語られています。本も出ているので、参考にしていただきたいと思います。

徳田会長

続きまして、「地域に気軽に楽しく学べる場づくり」に移ります。検討の視点例として、デジタル技術に合うこと、合わないこと、I C T活用が進む中での場づくりに必要なことが示されています。まず、区で感じていることがあれば、お願いします。

石井企画部長

まず「学びの場」に行けるのかというハードの話はありますが、ここではソフト面である学びの内容や文化の享受においてユニバーサルデザインの視点から制約になっていることとお話いただければと思っています。

白岩委員

コロナ禍でも元気アップ体操広場などを開催していたことが高齢者にとっては良かったと思います。ただ、密にならないように、元の1つのクラスを2つに分けたので、参加できる場が半分になってしまいました。

また、これまで借りていた区の施設が工事で使えず、他に場所を確保できないとお困りの声も聞きます。この計画の取組み以外の実態ももっと把握して、高齢者が増えているので居場所を増やす取組みも検討していただきたいと思います。

伊藤委員

住民主体で、高齢者が要介護にならないための地域の居場所づくりのイベントを毎週1回行っています。1回の参加者が50人くらいですが、イベントでお茶飲み会を行うと、最近では地域を越えてくる人も多くいて、場が求められていると感じます。区の助成金でこのような場をつくることができますが、区の要求内容は厳しく、申請を尻込みすることもあるようです。みなさんが地域活動しやすいように、もう少し簡便にしてもらえると良いと思います。

出竹委員

公的な施設で畳が残っている場所は、趣は良いのですが、高齢者や障害のある方が使いにくく、改善していただきたいです。

また、地域活動は近所に場がなかったり、工事などで使えなくなったりすると、行ける場がなくなるとよく聞きます。空き家など、何かに活用できる地域のスペースがあると、公的な施設に限らず、身近なところで地域活動がしやすくなるかと思います。

徳田会長

場所の問題に合わせて情報の問題もあります。多角的に問題が波及しますね。

マッケンジー委員

鷺宮スポーツコミュニティプラザの運営委員会に出席しています。コミュニティプラザで障害のある方のイベントや教室が行われているのですが、参加するには開催場所に行くまでの介助が必要です。ボランティアを募集しても、昼間だと無償のボランティアは、なり手が少ないです。コロナウイルス感染症も落ち着いてきて、利用者も戻ってきて良い状態ですが、せっかく企画しても介助者がいないという課題があります。有償ボランティアなら、なり手が増えるのではと想像するとともに、有償の責任感も生まれるのではないかと感じています。

徳田会長

次に、「地域における利用しやすいサービス・商品づくり」に議事を進めます。区民、事業者がユニバーサルデザインを実現するために必要な知識や行政支援の視点があります。資料2の4ページが関連する部分です。

市原委員

使い慣れていない申請方法は使いにくいです。これからの高齢者はデジタルに全く触れたことがない方は珍しくて、ファクスや以前のパソコンなど一世代前のデジタルに触れている方が多いです。昔のものなら使えても、新しいものは操作が簡単になったはずなのに、昔の癖でうまく使えないことがあります。

授業で学生に使いやすいようにデザインをさせますが、実際に使ってもらおうと「前の方がよかった」となることが多くあります。使いやすく簡単に直感的に使えるようにしたはずなのに、使いにくいものの方が良いと言われる場合があるので、いろいろな調査が必要です。

山崎副会長

対象者を知らないことが一番大きい課題だと思います。例えば、官公庁の審議会でも「障害者対策」や「車いす対策」といいます。しかし、障害者には様々なタイプがいるし、車いすだって様々な人がいてニーズが異なります。それを知らないで、大ざっぱに物を作ると失敗します。

区が率先して、指導ができる障害者と企業やお店の人をつなげるような懇話会などの活動が必要です。大企業でも誰が使うか分からない「障害者向けの車」を作ってしまうことがあります。病院にあるような車いすを前提にバスの中に固定装置を作ったら、新しいタイプの車いすだと使えないということがありました。当事者のことを知るための機会を是非提供してあげてほしいと思います。

徳田会長

チャンプーの例のように、実現するためには企業間の横の連携、情報の共有ができる機会も必要なかと思います。

次に、「わかりやすい情報を簡単に得られる環境づくり」に進みます。デジタル時代に合わせた情報提供の在り方や、誰もが使いやすいホームページ、わかりやすく知るために必要なことが検討例です。

伊藤委員

地域で高齢者を集めてスマートフォンの操作方法を教える「スマホカフェ」を始めました。来る人の話を聞くと、電話とメール、カメラの機能があれば良くて、それなら携帯電話でもいいのでは、と思いますが、みなさんスマートフォンを買わされているようです。

しかし、スワイプやタップの説明から始めないと使えず、販売会社のスマートフォン教室に行くけれども、すぐに忘れてしまう人たちがたくさんいます。私たちの会には、毎回同じ人が来ます。そして、毎回同じことを聞きます。繰り返し学ぶことが必要です。高齢者を情報の波から救う施策も必要だと感じます。

先ほどの個人情報に関する地域名簿の問題ですが、中野区にはアウトリーチチームという良い制度があります。そういうものをうまく利用して、町会の人たちと一緒に地域の見守り活動をしないと、助け合いの課題は解決できないのではと思います。昔の五人組ではないですが、地域の活動が必要だと思います。

徳田会長

高齢者が学び合える環境はとても大事だと思います。

市原委員

スマートフォンを扱い慣れている今の大学生がパソコンを使えないこともあります。システムが新しくなると、若者であっても情報弱者は結構な割合で出てくるので、統一性が大切です。例えば、パソコンとスマートフォンの操作方法が異なるなどです。問合せに対応するのも大変ですので、統一インターフェースを作ることが大切だと思います。

徳田会長

それは正にユニバーサルデザインですね。私の大学にもスマートフォンは使えるけれども、パソコンが使えないという新生が入ってきて、最初レポートを書けなくて困っている学生もいます。

次は、ハートの領域の議題に移ります。「違いを超えて尊重しあう心を育む教育環境づくり」です。教育の現場に必要なかつ実現可能で家庭でもフォローアップできることが、視点としては大事だと思います。資料2の5、6ページが関連部分です。

マッケンジー委員

学校が特別支援教育を一生懸命に取り組んでいますが、特別支援学級に子どもを通わせていない家庭の保護者に情報が伝わらないという課題があります。一概に発信側の問題ではなく、学校がどれだけ発信しても気持ちがいなければ伝わらないので、家庭の無関心も原因にあると思います。アンケートの実施で初めて自分の学校を知ることが多くある

ので、特別支援教育に関わらず、知ってもらい、理解してもらうことをうまく提供して、一緒に学校で成長していくことが大事だと思います。

伊藤委員

学校の周りにもバリアがたくさんあるので、各学校で通学路のバリアフリーをやってもらえると良いと思っています。私は、全ての区内小学校の通学路バリアフリーマップを作りたいと考えています。その小学校に通っている生徒が地域を知るきっかけになり、バリアを知ると重要な気づきがあると思います。2、3か所の小学校では既に実施しました。ユニバーサルデザインに基づいたトイレを含む、幾つかのコースを車いすで回り、身近なインフラを実体験で学ぶと子どもたちにとって良いと思います。

山崎副会長

この教育の施策の方向でも、障害のある人の中にも違いがあると教えることが大事だと思います。重い車いすを体験させると、子どもたちは「大変」、「重い」、「つらい」という感想です。私の場合は、小さい車いすや大きい車いす、スポーツ用の車いすを用意して、いろいろ乗ってもらいます。そうすると、「こんなに違う車いすがあるのか」、「自分のおじいちゃんは、もっとこういう車いすがいいのかな」という話にもなります。視覚障害者はこういう人、知的障害者はこういう人、のような学校教育だと思考が固まってしまいます。いろいろな人がいていろいろな障害のレベルがあると教えていく次の段階にきていると思います。

大野委員

バリアフリーというと、多くの方が車いすの体験やアイマスクを使った視覚障害の方の体験を思い浮かべると思います。ただ、実際は目が不自由な方はいろいろなことができるのだけれども、アイマスクの体験だけで「こんなに大変なのか」と言われて違和感があったと聞きました。

逆にバリアフリーとしては話題に出にくいのですが、小さい子どもを連れた荷物の多いお母さんが困っているという事象があります。トイレに行くと、子どもを座らせる場所があっても大きな荷物を置く場所がないなど、抜け落ちている視点も多くあるのではないかと思います。そういう視点をピックアップする場があるといいのではないかと思います。

徳田会長

バリアフリーやユニバーサルデザインは小、中学校の家庭科の教科書などに載っているようです。以前は国語の教科書に載っていて、その内容を踏まえて総合的学習という授業をしていたのですが、国語の教科書からはユニバーサルデザインの記述が削減されたようです。さらに、総合的学習の内容は時代の流れに左右され、今はSDGsに話が移ったことでユニバーサルデザインに関する授業時間が減った、と他の区で聞いたことがあ

ります。学校でできない部分は、地域で育んでいくという視点も必要だと思います。学校の先生は時間が限られていて全て教えることが難しいので、詳しい方の力を借りるやり方もあると思います。

次に、「ユニバーサルデザイン推進の担い手づくり」に議題を進めます。ユニバーサルデザインに必要な職員や区民の意識が検討の視点例として示されています。資料2の6ページが関連資料です。

山崎副会長

いくつかの県や市で、ユニバーサルデザイン担当の部署を作るお手伝いをしました。担当者が異動するとゼロからやり直しになってしまうので、ユニバーサルデザイン担当を各部署に1人配置しました。ユニバーサルデザインは全てに関連するため、どこの部署でも必要です。中野区でもそういったことを進めるといいと思います。

新家委員

昨年、母が定年退職をしたのですが、自分がやれることとして要約筆記を勉強して、生き生きと活動しています。支えられる人と支える人の関係だけではなく、高齢者の中にも担えることがあるので、スキルなどを身に付けてもらうのもいいかと感じました。

また、区職員の理解促進研修がありますが、理解だけでなく実感することが大切だと思います。私自身、会社で研修を受ける機会がありますが、繰り返し言われたり、勉強したり、オンライン研修を受けたりする中で、教えが自分の中に残って実感できることもあるので、繰り返しが大事だと感じました。

白岩委員

区職員の理解促進の実績に50名の研修の記載がありますが、50名は区職員の中で少ない割合だと感じました。コロナ禍ですので動画視聴の研修が多かったと思いますが、仕事の合間を使えば、かなりの職員数が見られると思います。また、「見ました」、「やりました」で終わりではなく、初級、中級、上級と、段階を経た研修を行って、状況を確認できると良いと思いました。

伊藤委員

中野区では区民に対してユニバーサルデザインサポーター養成講座を行っています。この内容は動画視聴です。講座の内容である困っている人に声をかける場面に出会うことは意外とないかと思います。

他区の入庁2年目の職員研修に4年ぐらい参加しています。障害のある方に来てもらって、講座をして、実際に外に出て、車いすでいろいろなコースを回る全職員が参加する研修を行っています。新しい発見があって役に立っているようなので、職員のユニバーサ

ルデザインに対する意識向上のために実地の研修をすると業務にも役立つのではないかと思います。

徳田会長

続いて、「ユニバーサルデザインの考え方を広げるしくみづくり」に進みます。区民、事業者が関心を寄せるユニバーサルデザインの視点や、ユニバーサルデザインを意識できるきっかけが検討の視点例として示されています。資料2の6ページから7ページが関連部分です。

大野委員

使う時に「なぜできたか」、「どこがユニバーサルデザインなのか」の説明があると、みなさんがユニバーサルデザインを意識できるきっかけになると思います。例えば、中野区ユニバーサルデザイン推進計画でユニバーサルフォントを使っていますが、意識して見えていない人も多くいるので、「全ての人にわかりやすく作成した印刷物です」と書く。その説明を見ると、生活の中で実感を持つと思います。

マッケンジー委員

ユニバーサルデザインを広めていくに当たり、区役所や中野駅周辺でイベントが開催されることが多いので、いろいろな場所で開催してほしいと思います。

伊藤委員

地域でユニバーサルデザインを広めるといって大変に感じるかもしれませんが、例えば、町会を通じた会合で、施設のピクトグラム調査を行うと身近に感じられます。一般のエレベーターと個別対応エレベーターがあります。エレベーターの機能をピクトグラムなどで表示しているところもある一方で、案内にも表示されていないところもあります。10分あれば施設のピクトグラムを調べられます。ユニバーサルデザインを区民が知るきっかけになります。

倉知委員

資料2の主な取組の啓発小冊子のことは、この審議会で初めて知りました。ふだん意識せずに生活していると、知らないことが多かったと思いました。意識しなくても目につくように、例えば、小学校にわかりやすい子ども向けの冊子を置くなど、いろいろなところに置いてほしいと思います。

また、イベントは区役所や中野駅周辺だけでなく、地域センターや小学校でもやってほしいです。いろいろな方を呼んで講演会を開催するのもいいのではないかと思います。

高橋委員

ユニバーサルデザインを推進していることに無関心の区民が多いように感じるので、多くの人が利用するコンビニエンスストアに協力してもらって、店内にポスターを貼る、チラシを置くなどすると、老若男女問わず目につくように思います。

伊東委員

どんな取組みが効果的かはやってみないと分からないところもあるので、いろいろな取組みを組み合わせると、意識が広がって効果的だと思います。

徳田会長

続いて、「個性や多様性を大切にする意識づくり」ということで、ダイバーシティに関する議題です。資料2の7ページに関連部分があります。暮らしの中で意識しなくてはならないことや意識を高めるために必要なことが視点です。

瀬田委員

現計画内の「国際理解・国際化推進」は古いカテゴリーになりつつあります。今は「多文化共生社会」が多いです。よくわかった人同士がつながることも大事ですが、言葉や人種の壁を超えて、中野区で共に生きる身近な存在として生活者視点を持つことが何よりも大事です。

中野区には外国籍、二世の方あるいは永住の方が増えてきており、2万人を超えようとしています。日本人は、日本語を話し、髪が黒いという人が多いです。そこから良い意味で脱却する時代を迎えているのではないのでしょうか。そのためには、現計画にもある、個性や多様性を尊重する社会が求められています。少数の方へ目が向かなかったところから、一人一人の違いに着目して、各団体で、あるいは地域の中でどう結びつけるかを考え、一緒に暮らす時代になってきています。

中野区も多文化共生推進基本方針等に取り組んでいて、私も連携協力をしています。区を挙げて、あるいは区民との協働で、次なる社会に向けて走り始めていると感じます。その中の一つのツールとして、やさしい日本語が注目されています。翻訳ツールやAIなど様々な手段を活用しながら進めていくことが大切だと感じています。

白岩委員

個性や多様性を大切にする意識づくりは子どもの教育、学校教育、地域の教育に反映して見えてくるといいと思いました。

マッケンジー委員

パートナーが外国人で生活の中で感じることは、大人が他国の人を怖がらないことが大切だと思います。日本は閉鎖的な部分が多いです。ここ10年でかなり良くなっていると肌で感じますが、まだまだです。

海外の人が日本語で「道を教えてください」と言っても断っている場面を見かけたり、聞いたりします。リスペクトの気持ちを持って向き合えば、他国の人も同じように返してくれますし、大人が怖がると子どももその様子を見て怖いと思い込んでしまいます。

学校の教育では、日本のことをきちんと教えることが大切です。日本を理解することで、「では他の国はどんなのだろう」と興味を持ち始めると思います。海外の方と交流を持つ時に、自国のことがわからないとお話にならないです。まずは日本人として日本のことをきちんと知ることも教育として大事ですし、その積み重ねの教育が基になって、日本人が海外の方とうまくコミュニケーションをとれるようになると思います。

伊藤委員

今年度中野区がダイバーシティフェスタというイベントを開催しました。多様な方が集まってブースを開き、多くの人に理解を深めてもらうことができました。たくさんの方に状況を知ってもらうため、来年度の開催も中野区にお願いしたいです。

山崎副会長

先ほど話に出た、違いを理解することが大切だと思います。イギリスで障害者差別解消法が始まった時に、「DETトレーニング」というものが始まりました。「Disability Equality Training」の略で、障害の方を理解するトレーニングです。その中にある考え方が障害の「医学モデル」と「社会モデル」です。

昔、障害者は医学的に障害があるから悪いと言われていました。しかし、障害は、社会の仕組みやインフラが整備されていないから創り出されたという「社会モデル」に変わってきて、パラリンピックに向けたまちづくりでも、この考え方を心のバリアフリーに取り入れました。

DETトレーニングが日本に入って来て、日本で最初に始めた方たちのところへ受けに行きましたが、ここ数年で見た研修の中で最も素晴らしいトレーニングだと思いました。「ファシリテーター」というトレーニングを受けた障害の方がいて、その人たちが中心になってロールプレイングを行ったり、ビデオを見たりして学びます。

研修の最初に「障害って何ですか」と問いかけると、「大変」、「かわいそう」と言っているのが、最後に聞くと「私たちが何かをしなければいけないのだ」という方向に変わっていきます。DETトレーニングのファシリテーターは障害のある人がほとんどで、目黒区など幾つかの区にはもういます。中野区にいらっしゃるかわかりませんが、中野区でも

ファシリテーターをつくってDETトレーニングを提供するといいと思います。違いについても理解するので、外国の方や男女のことにもつながると思います。

徳田会長

マッケンジー委員の「怖がらないで」という話が胸に響きました。知らないと怖い気持ちを感じて警戒してしまうので、交流の機会があると、打ち解ける場になります。交流するいろいろな場面や環境があるといいだろうと思いました。

最後に、市原委員と山崎副会長に本日を統括してご発言をお願いします。

市原委員

ユニバーサルデザインはいろいろな人を対象にしているので難しいですが、複雑にしないことに合わせて、困っている声を聞いて、一人一人に対応することも大切です。先回りして想像で作ると、うまくいかなかったときに邪魔になってしまいます。予算も無駄になります。パンフレットの作成よりも、対応方法を記録して、それを広く周知した方が効果的だと思います。

徳田会長

当事者の方に参加してもらわずに勝手にやってしまうとうまくいかないの、当事者の方も一緒に参加する視点が大事ということですね。「いろいろな人にとって良いものにする」ことは難しいからこそ、みんなで相談していくことが大切だと思いました。

山崎副会長

本日のご意見から、ユニバーサルデザインを学ぶ場が少ないことを感じました。障害のある方や外国の方などと触れ合う機会が少ないのかと思います。そのような機会を増やしていくことを入れてほしいです。

先ほどお話しした、障害の社会モデルは他のマイノリティーの方に対しても使える考え方だと思います。オリンピック・パラリンピックの行動計画にも入れた考え方でもあるので、その考え方を取り入れると良いと思いました。

徳田会長

本日もたくさんご意見をいただきまして、ありがとうございます。今回の議論を踏まえて、次回以降は答申に向けて、話をある方向にきちんとベクトルが向くように、議論を進めていければと思っています。事務局から事務連絡をお願いします。

堀越ユニバーサルデザイン推進課長

次回の第4回審議会は、5月11日木曜日の夜を予定しています。

議事録は前回同様、委員のみなさまに確認をいただいた上で作成しますので、ご協力をお願いします。

徳田会長

以上をもちまして、第3回中野区ユニバーサルデザイン推進審議会を閉会します。次回もよろしくをお願いします。

(午後8時50分閉会)